

## 第2次総合計画策定に向けた「分野別ミーティング」開催記録(概要)

| 分野 | 分類     | 主な発言内容   |
|----|--------|--|
|    | 農業振興   | <p>◇イベントなどが実施しやすい施策は満足度が高い。しかし、農林業など重要度は高いが満足度の低い施策は費用がかかるものが多く、対策が後回しになっている。また、十分な宣伝ができていない。</p> <p>◇県はいろいろな農業施策に補助金を出しているが、市や農協はその取組みに十分に追従できていない。</p> <p>◇国県レベルでは、農業施策など非常にいいことを提案してくれるが、市(現場)ではなぜできないのか。市町村レベルの担当者がそのビジョンを理解できていない。</p> <p>◇農業関係もそうであるが、市は産業の分野をどうしたいのか見えてこない。</p> <p>◇宍粟市での新規就農はゼロに近く危機感を感じている。また、高齢化が進んでいる。総合計画は10年の計画であるがピッチを上げて対応してもらいたい。</p> <p>◇地域によっては鹿柵の設置や修繕に追われている。これら被害を受ける環境は人間が作ったもので、環境づくりから考え直すべき。</p> <p>◇人口が2万7千人にまで減ると、水稻を耕作する面積は激減する。</p> <p>◇地産地消を推進されているが、自給率は30%強であろうかと思う。自給率の向上のために目標値をかかげてみてはどうか。</p> <p>◇農産物直売所はJAにもあるが営業時間が昼間のみである。市内の野菜をもっと広めるなど、宍粟のいいものを広げて「宍粟市力」を高めることが大事である。</p> <p>◇農業委員会の耕作放棄地調査のデータを活用したりして、都会の人の力も活用するなどして農地の利用を推進する必要がある。</p> <p>◇土地改良区の管理運営にあたり、対処すべき課題に即行動の取れる、専門知識のある職員の配置を希望する。また、対応すべきこと、知らすべき情報はいろいろな角度から知らせてほしい。</p> <p>◇人・農地プランモデル事業について、集落ごとに取り組みるところから実践し、最終的には地域全体が取り組めるよう、市とJA等関係機関が連携し、地域の人を動かすことが必要である。</p> |
| 産業 | 林業振興   | <p>◇田舎の山林では人工林の密植により土砂崩壊が起きている。その結果、河川決壊や農業施設に影響を及ぼすことにもなっている。人工林は保水力がないので、地域の中で木を伐れば補助がもらえるような事業も必要ではないか。</p> <p>◇宍粟市は面積が広大で森林は90%あるため管理が行き届いていない。また、今の国産材の値段では市場に釣り合わない。農山村は人口減と高齢化に悩まされている。他の市町より飛びぬけたことをしないといけない。</p> <p>◇林業は植林から伐採という循環型でないと成り立たないが、植林しても野生動物に食害を受ける。土砂災害など自然災害もあるので、引き続き防災対策とあわせ林業管理をしないといけない。</p> <p>◇総合森林産業という形(森林組合・製材・建築などを含めて)で6次産業化を。</p> <p>◇森林の活用(皆伐でなく間伐)で収入の増加を図る。そのためには、搬出する作業道の整備が必要である。</p> <p>◇宍粟材の天然乾燥によるブランド化。</p> <p>◇林業とそれを取り巻く建築関係者の人材確保と担い手づくり。</p> <p>◇ペレット製造と販売、木炭製造の復活、キノコ生産と加工販売など、木材以外による林業の活性化の推進。</p>   |
|    | 商工業の振興 | <p>◇この地域で基幹産業がないということが問題で、基幹産業をどういうふうにして直していくか、作っていくかが課題である。</p> <p>◇1次産業だけではダメ。6次産業化を立ち上げることが必要。</p> <p>◇生産人口を増やすことが一番重要。働く場としてIT分野、エネルギー分野にその可能性がある。また、特産品づくりが重要である。働く場所の創設が若者を呼び込む手段となる。</p> <p>◇宍粟市はかつて職人の多いまちであったが今は減っている。市が率先して、職人の育成ができる学校や研修所の設置を検討されたい。</p> <p>◇人口の減少が問題だが、トップセールスでもいいから一体となって企業を誘致して、若者が働けるように行政として真剣に取り組む必要がある。</p> <p>◇空き工場が市内各地に目立っている。既存の製造業関係者がメーカーに挑戦する環境づくりが必要である。</p> <p>◇6次産業化に向けた特産品づくり。</p> <p>◇市内に約2,500ある商工業者のうち、約2,200が従業員5人以下の小規模事業者である。小規模事業者への支援と新規創業者の促進、異業種交流など、行政と商工会が同一歩調で歩むことが地域の疲弊、人口減少の歯止めになると考える。</p>   |

## 第2次総合計画策定に向けた「分野別ミーティング」開催記録(概要)

| 分野    | 分類      | 主な発言内容  |
|-------|---------|---|
| 産業    | 観光振興    | <p>◇観光地へ行くための公共交通手段がないため、車を運転できる人しか行けない。山崎までは来れるが、そこからバスがなくなる。50名山に行くにしても車を停めるところがない。また、引原ダムでのカヌー祭りがあるが、地元の者ですら誰かが送迎しないと行けない。観光イベントを開催されるのはいいが、都会の人は車を持っていない人も少なくなく、会場へ行くための交通手段も一体的に考えておかないといけない。</p> <p>◇山崎の街並みは城下町として非常に良い資源がある。これを活用してプラットフォーム的な案内所を設置して、そこで農産物を販売するなどの対応を早急を実施する必要がある。</p> <p>◇観光客の増加には鉄道が必要。</p> <p>◇山崎「道の駅」の復活。</p> <p>◇四季を通した花による観光資源の掘り起こしと行政支援。</p> <p>◇国道29号沿いに観光協会を中心とした様々な機能をもった拠点施設を早急に設置し、市の観光PRを一元化する。</p> <p>◇観光は北部地域に力を注ぎ、魅力的なイベントの実施や施設を配置することで、シャワー効果により中部、南部地域への経済効果を図る。特に、野菜や果物の直売所の充実、農家の所得の向上、耕作放棄地の削減、高齢者の生きがいにつながり、北部地域の振興に大きな効果があると思う。</p> <p>◇観光施設に雇用の場をつくれるような観光計画の策定。</p> |
| 生活基盤  | ゴミ処理    | ◇週に1回のごみ回収では、家庭では置いておく場所がなく困っている。生活環境のためゴミ回収回数の増加はできないか。  |
|       | 再生エネルギー | ◇生ごみからメタンガスを発生させ、エネルギーを賄っている企業が市内に存在する。自給率向上につながる。  |
|       | 生活景観    | ◇田畑、森林の美しい景観を守るためには、生産意欲がもてる農林業施策が必要である。 <p>◇揖保川にアオミドロが発生することが多くなった。下水処理水の影響ではないか。河川環境の調査が必要ではないか。</p>  |
|       | 道路整備    | ◇産業圏域を姫路周辺だけに絞らず、朝来市や養父市など但馬区域も含めてもらいたい。そのためには県道整備は重要である。 <p>◇県道田井中広瀬線は歩道が左右に変わる場所があり、渡ったところの溜り場が狭く危険である。危険区域の解消に向けた取組みが必要である。</p> <p>◇県道から市道への払下げ路線で、舗装が悪く水溜りができるところがある。引き受ける際は旧道処理をきっちりやってから受けてもらいたい。</p> <p>◇道路改良は費用対効果だけでなく、必要性も重視してほしい。地方部では道路が整備されないと観光や産業が広がらない。</p> <p>◇加美宍粟線のつながりで神河町との交流が深い。トンネルが開通すれば交流がさらに進む。</p>   |
|       | 公共交通    | ◇一宮の北部など神姫バスが運行していない地域が多くある。高齢となり免許を返還すると生活できなくなる。生活に身近な問題を考えてもらいたい。 <p>◇もしもバス等の運行は幹線道路だけでなく、集落内の枝線も運行できるよう検討する必要がある。</p>   |
|       | 住宅整備    | ◇一宮町、波賀町、千種町での市による宅地の造成。  |
| 防災・防犯 | 交通安全    | ◇この2年間、交通安全対策委員会の開催がない。市は交通安全への意識が薄くなったのではないか。職員が交通安全の意識を持つことが安全対策につながる。  |
|       | 防災      | ◇何度も同じところで災害が発生している。災害復旧は原形復旧でなく、安全な断面構造を確保して災害が起きにくいものにするのが大事である。 <p>◇ゲリラ豪雨での災害は他人事ではない。防災対策の充実を。</p> <p>◇昭和51年に発生した一宮町の災害以降、一宮町は定期的に防災訓練を実施している。その成果が21年災害の対応につながり、人的被害はなかったのではないかと。防災訓練は重要である。</p> <p>◇災害防止のため、川すそや山すその伐採を進める条例を検討されたい。</p>  |

## 第2次総合計画策定に向けた「分野別ミーティング」開催記録(概要)

| 分野    | 分類    | 主な発言内容   |
|-------|-------|--|
| 健康・福祉 | 健康づくり | <p>◇いずみ会では幼稚園に出向き食事指導を行っている。以前は150人の会員がいたが現在では70人にまで減っている。後継者がいないことが悩みである。</p> <p>◇幸せを感じる生活の基本は健康なことである。医療費を使わない者に対しての特典とかできないか。</p>   |
|       | 医療    | <p>◇医療に対する満足度の低さは医師の数が少なすぎることにある。日本の平均で10万人あたりの医師の数は210人となっているが、宍粟市では130人から140人である。この人数の増減には宍粟総合病院の医師数が影響している。</p> <p>◇地域が広すぎる。都市部では歩いての往診が普通であるが、宍粟市では自動車での往診があたりまえとなっている。</p> <p>◇市薬剤師会では毎月勉強会を実施しており今月で151回目となる。また、各薬局が備蓄している薬の一覧を薬剤師会に提出し、年2回は薬剤師会から各会員に配布して処方箋の薬にできるだけ対応し、患者の方が満足するようにしている。これは兵庫県内では宍粟市薬剤師会のみでの取り組みである。</p> <p>◇宍粟総合病院は最近充実してきている。</p> <p>◇宍粟総合病院はよく努力され、サービスもよいことを自分が患者になって実感している。</p> |
|       | 高齢者福祉 | <p>◇認知症や認知症気味の人、肢体の不自由な方も地域に住み続けられる地域づくりを考えていく必要がある。</p> <p>◇子ども、高齢者に手厚い社会、子ども、高齢者以外の人にとっては生きがい、働き甲斐の持てる社会づくりを進めることが大切。</p> <p>◇高齢者が安心して暮らせるまちづくり。</p> <p>◇年金の不安もあるので、総合計画には高齢者も含めて働く場というものの位置づけが大事である。</p> <p>◇シルバー人材センターは「就業機会の拡大」「会員拡大」を最重点課題としている。行政から独立して活動できるよう頑張りたい。</p> <p>◇高齢化はマイナスでなく高齢者は財産である。高齢者が元気に活躍できる施策が必要。</p>  |
|       | 障がい福祉 | <p>◇グループホームの充実。</p> <p>◇障がい者の就労支援の強化を。現在働いている人は、良いところで月に2～3万円、低いところでは月に1万円であり、生活するには不足していて自立できない。国や県と連携し、自立できる仕組みを作る必要がある。</p> <p>◇日本は精神科の入院患者、入院日数が先進国の中では飛びぬけて多い。これは社会に出て受け入れ先が少ないことが原因であるため、受け入れ体制の確保に努力されたい。また、精神病患者は病気の特性が理解されないことがあるため支援が必要である。</p> <p>◇精神科系の障がい者手帳所持者に対する福祉サービスの種類が他の障がい者手帳所持者に比べて少ない。(高速道の割引、鉄道割引等)他の障がい者手帳所持者と同様のサービス確保に努められたい。</p>   |
|       | 地域福祉  | <p>◇社会福祉協議会では、地域のつながりに着目し第2次地域福祉推進計画の策定を現在進めている。</p>   |

## 第2次総合計画策定に向けた「分野別ミーティング」開催記録(概要)

| 分野    | 分類      | 主な発言内容   |
|-------|---------|--|
| 健康・福祉 | 子育て支援   | <p>◇子どもを増やすための補助が少ないのでは。また、結婚を進める制度や取組みなど、子どもが生まれる前の福祉サービスが見えない。</p> <p>◇結婚をしないと子どもは増えない。結婚推進に力を入れる必要がある。</p> <p>◇合成洗剤の使用が不妊の原因との説がある。合成洗剤の害を知ってほしい。</p> <p>◇どうしたら子どもが増えるか。若者の結婚相談など昔の世話役が少なくなった。行政が代わりにできないか。</p> <p>◇最近の親は、家庭で子どもに「生まれた家、育った土地に住みなさい」という教育をしていないから子どもが出ていってしまう。少子化を防ぎ、人口減対策としても家庭教育をやり直すべき。将来、独居老人になるか切実な問題なので総合計画に反映していただきたい。</p> <p>◇今の親は一生懸命に子どもの学校活動などに参加している。一昔前は今のような子育てがあまりできていなかった。これが今になってツケとして回ってきているのかもしれない。農業離れなどは子どもに体験させていないからだと思う。</p> <p>◇人が集まることが大事である。福井県はおだやかで教育レベルも高く、地場産業があるから若者が帰ってきている。また、お年寄りが子どもたちの面倒をよくみている。</p> <p>◇人口減少は危機的な問題である。今、保育所入所児童数が多いのは母親が働かないと生活がやっていけないことと、働きたいという思いの表れである。</p> <p>◇子育て世代の意見を十分に取り入れた計画にしてもらいたい。</p> |
| 教育    | 学校教育    | <p>◇一宮北中学校区の小学校の適正化が進んでいるが、中学校の生徒数も急激に減少しているので早めの対応が必要と考える。</p> <p>◇学校の先生の負担が大きくなっている。子どもたちを守るのは親と地域と先生であり、その先生を病気にするようなことだけはなくさなければならない。</p> <p>◇ふるさととは誇りと自信になるものを育んでくれたところ。学校教育で「ふるさと意識」を育てていきたい。</p>  |
|       | 青少年の育成  | <p>◇健全で善悪の判断ができ、時代の変化に応じた学力を身につけ、宍粟を愛する心をもった子どもに育ててほしい。</p> <p>◇パソコンや携帯電話などの情報機器は急速に進化している。使い方など正しい方向に導いていく必要がある。</p> <p>◇今の子どもは親との対話がないため家庭での対話を考えなければいけない。危険ドラッグの怖さも新たな問題である。各種団体が連携を取りながら情報の共有をすることが大事である。</p>  |
|       | 生涯学習    | <p>◇文化大学の地域リーダーを各自治会で1～2名配置したいと思っているが会員が減少している。市役所OBの方にも入っていただきたい。</p> <p>◇各種教養講座やクラブ活動で修得したものを社会活動に寄与したい。</p> <p>◇高齢者大学は地域ごとの活動になっているため、市内の他の地域の高齢者大学と交流を図りたい。</p> <p>◇高齢者の学ぶ拠点施設がない。廃校になった校舎など、天候に左右されない屋根付きの施設を検討されたい。</p> <p>◇生涯学習事業は旧町単位で進めているが、いつまでもこのやり方で良いのかと思う。学校規模適正化などとあわせて、事業のあり方も考えていかなければならないと思っている。</p> <p>◇市民全体で趣味を持つ取組みをしよう。趣味をもつことで人と人の繋がりや活性化が図れる。</p>  |
|       | 人権教育・啓発 | <p>◇平成21年度に実施した同和問題に関する市民人権意識調査の結果、宍粟市は全国ワースト1位であった。人権教育を推進するための人権センターを設置し、また、人権センターには児童生徒の児童館の併設も検討する。</p> <p>◇市の教育集会所事業は機能していないと思う。</p> <p>◇県で初めて広域隣保事業に取り組んでいるが成果が上がっていない。</p> <p>◇過疎化で住民の人数が少なくなると人権感覚の歪みも生まれてくる。</p>  |
|       | 男女共同参画  | <p>◇宍粟市では婦人会はなくなったが、まちづくりを進めるための組織には女性の参画が必要である。</p>   |
|       | 芸術・文化   | <p>◇少子高齢化対策として文化面の発展がほしい。昔は一宮でミュージカルを開催したりしていたが、あの時代の勢いがほしい。</p>   |

## 第2次総合計画策定に向けた「分野別ミーティング」開催記録(概要)

| 分野    | 分類       | 主な発言内容  |
|-------|----------|---|
| まちづくり | 地域コミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇このままでは集落が消滅する。2～3年前に県が人材育成プログラムを実施したが宍粟市は過疎化で人材がいない。外部から人材を派遣するなど、集落を活性化させる取組みが必要。</li> <li>◇若い働き手の親たちの世代が、地域で活躍してもらえることを考えなければならないと思う。</li> <li>◇まちの活性化には市外から来た人の力が必要である。</li> </ul>   |
|       | 定住促進     | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇空き家情報に合わせ、農地や就職先なども市から提供しなければならない。住む家だけではダメである。定住促進を市が本気で取り組むのであれば、職員の片手間仕事ではダメである。現場を歩き回り、希望者と話しをする専門的な職員を配置しなければならない。デスクワークだけでは広がらない。</li> </ul>  |
|       | ボランティア   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇福祉計画や総合計画に更生保護に関する項目を入れて、対象者の就労の支援や医療支援等を推進されたい。</li> <li>◇保護司、更生保護女性会は、現在活動の場所として個人の家を利用しているが、市の施設で空いている部屋でもよいので活動の拠点となる更生保護サポートセンターの設置を検討されたい。</li> <li>◇婦人共励会の活動にシングル母親の参加がない。特に若いシングルの母親が仲間づくりをできる場としたいが、呼びかけの方法が分からない。若い母親との接点がないので市の支援を必要としている。</li> <li>◇要約筆記をされる方が減っている。また、手話通訳の方が高齢化して困っているので支援が必要である。</li> <li>◇ボランティアをする人の高齢化が進んでいる。</li> <li>◇重要度と満足度を聞いたアンケートで、ボランティアについての重要度が低いのが気になる。</li> <li>◇多くの若者がボランティア活動をしている。ボランティア意識が高いのは教育のあり方がよかったのだと思う。</li> </ul>  |
| その他   |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇第1次総合計画の成果や課題など、検証はできているのか。</li> <li>◇総合計画がゴールではない。今後、宍粟市をどうしていくかだと思う。市民と市職員が力をあわせてつくっていく必要がある。</li> <li>◇今後10年、この地域でどのような計画を立てるか、すべての住民が満足できるということはできないと思う。肉を切らして骨を断つという方策も必要ではないか。</li> <li>◇少子化、人口減、過疎化など宍粟市は何を守ろうとしているのか。市をどのように発展させ、存続したいのか見えてこない。</li> <li>◇今回のような意見交換は各分野をもっと細分化して実施するといいい。</li> <li>◇今後10年メリハリのついた特徴ある計画でお願いしたい。</li> <li>◇総合計画は、5年後にはどれくらい、10年後にはどれくらいと、目標を数値化したものとしてほしい。</li> <li>◇人口減は地域に大きな影響がある。そのことを特に計画にあげる必要がある。</li> <li>◇コンパクトシティ化は自治体を消滅させる。</li> <li>◇総合計画策定の基本方針にある、「選択と集中」と「計画の達成度の評価」は重要である。計画を検証するために、抽象的にならず誰もが評価できる指標が必要である。</li> <li>◇合併前には旧4町の特色があった。市全体で同じことをするだけでなく、地域で特色のある施策も必要である。</li> <li>◇国の政策で都市部へ人口が集中したが結局は少子化により人口が減ってきた。コンパクトシティ構想などは田舎には合わないと思う。</li> </ul> |